

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立高野小学校

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
<p>自ら考え ともに伸びていく心豊かな子どもを育てる</p> <p>よく聞き、自分で考える子 話し合い、力を合わせる子 最後までやりぬく子</p>	<p>「しつけの徹底と学び合いの推進」 基礎的生活習慣の定着を図る。 基礎的・基本的な学力の定着を図り、思考力を育む。 自分を大切に、友だちを思いやる心を育てるとともに、支え合う集団を育てる。 家庭や地域、保幼小中の連携を密にし、その教育力を指導に生かす。 年間を通じての取り組み ・あいさつ「進んであいさつをしよう」 ・時間を守る「チャイム着席をしよう」</p>

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国 国語、算数ではA(基礎)、B(活用)とともに全国平均を下回っている。 算数では、A問題の整数の加法、乗法などは県平均や全国平均を上回っている。 文章を要約したり、二つの文章を読み比べたりする活用的な力が弱い。</p> <p>県 各教科とも県平均を下回っている。 国語については、漢字に関する読み書きは県平均を上回っている。 算数については、分数や小数の計算は県平均を上回っている。 社会については、歴史分野は県平均とほぼ同じだが、県平均を上回っているものもある。</p> <p>(例) 46 + 57の加法の問題: 本校97.6%(県97.1%) 903 × 6の乗法の問題: 本校92.9%(全国92.8%) 2 ÷ 5の除法の問題: 本校81.0%(県90.1%)</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>決まりを守ろうとする児童がやや下回っている。 テレビ、ゲームなどの時間が県の平均時間より長い。 家庭学習のやり方を教えてもらった項目が昨年度に比べて大幅に増えている。(家庭学習の手引きの完成と配布)わからないことがあった場合、友だちに尋ねる児童が多い。 友だちとの約束を守る児童が多い。 近所の人に挨拶している児童が多い。 読書をする時間が県平均を下回っている。 いじめはいけないと考えている児童が多い。 学力の高い児童は携帯電話やスマートフォンを使うときの決まりを守っている。</p>

成果と課題	課題に対応した改善方法
<p>成果 国語の漢字の読み書きや計算といった基礎的な学力の中には全国平均を上回っているものが多く、日常の反復学習の成果と考えられる。 社会については、歴史分野など県平均を上回っているものがあり、ある程度の学力がついている。 グループ学習について一定の評価がでているのは、校内研修で取り組んでいる「学び合い」の成果と考えられる。</p> <p>課題 長い文章や長い問題文を読むことに慣れていない。 算数の図形、百分率、小数の引き算の分野に課題がある。 国語の読む、書くなどに課題がある。 国語A話すこと、聞くことに関しては、昨年度より全国平均との差が約3%縮まっているが、書くことに関しては6ポイント下がっている。</p>	<p>基礎基本の定着も大切だが、学習したことを活用した応用力をつけることが必要。 書く力をつけるための学習活動を積極的におこなう。……作文指導、自分の考えをノートに書く。 文の読み取りの力をつけるために読書量を増やす。……移動図書館、学級文庫の充実、朝読書などの活用。 学力テストと同等又は、以前の問題に全員で取り組む。……県の到達度テストの活用(学年を1つ下げても良い) テレビ、ゲームの時間を減らす。……保護者への呼びかけと意識改革。 ノートをゆったりと丁寧に書く。……算数については定規を使って丁寧に書き計算を残す。 家庭学習の手引きを活用し、家庭での学習時間を増やす。 無回答(空白)提出者を減らすため、あきらめず最後まで問題に取り組むように指導する。 表やグラフを活用した授業を工夫する。 文章を読んで要約する力をつける。</p>

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
<p>単元の終わりや年度末に同類の問題を解く。 学年ごとに重点項目を定め、学期末や学年末に単元テストやまとめテストなどで検証する</p>	<p>今年よりも県平均との差が縮まり学力が向上する。 漢字の読み書きの習得率9割以上を目指す。 基礎的な四則計算の計算の習得率9割以上を目指す。 特に算数は定規を使い児童のノートがきれいに書けることを目指す。</p>